

## 千葉県市民連合ハラスメントアンケート 結果（要約）

2021.4.20

実施期間：3月19日～4月15日

実施対象：一般市民（主に千葉県市民連合で活動する人）

回答数：24人

## 〔主旨〕

政治家のジェンダー平等意識が欠如した発言が度々繰り返され、そのたびに大きな問題になっています。そのことによって意識は広がりつつありますが、女性蔑視発言やDVやハラスメントは減ってはいません。また、ジェンダーギャップ指数が世界121位と下位から4番目の日本では、政治の場・意思決定の場の女性比率が非常に低いという実態が問題になっています。

今回、市民活動でのジェンダー平等意識・ハラスメントについてアンケートを行います。市民活動をする中で、様々なハラスメントにより活動に参加出来ない人が出てきたり、組織が機能しなくなるということがあります。あってはならないことですが、目を背けずに対応していきたいと思いません。実態把握のために協力をお願いします。

問1) 男性12人 女性11人 どちらでもない1人

問2) ご自身のことについてお聞きします。関わっている市民活動で、ハラスメント（パワーハラ・セクハラなど）を受けたことはありますか。

- ①パワーハラメント 5人 ②セクシャルハラメント 3人  
③その他ハラメント 2人 ④ない 16人

## 問3) 記述

男性	①	署名活動中、特定の政党かと問われた。政治に関する活動を否定される人がいた。
女性	①	円滑に進んでいた会に入ってきて、個人への誹謗中傷を繰り返し、会は解散した。
女性	①	教授
女性	①	市民連合で、自分が支持しない候補者のことを激しく非難する。その人を支持する人たちを非難する。様々な考えを持つ人が活動していることを理解していない態度。
女性	①③	自分よりも弱いと思う人に対しては高圧的で、「私が悪かった」と思わせるような言動を行う。
女性	②	40代・50代の市民活動で、男性達が「参加している女性の中で誰が一番タイプか」話して、その結果を聞いた。
女性	②	「〇〇さんも年取るんだね」「昔はかわいかったのに」と余計なことを言われた
女性	②③	付きまとい行為をされた。交際を断ったあとに逆恨みをされた。

女性	②③	会の中でセクハラ被害があったことを訴えたが「事実かどうかわからない」と言われた。
女性	①	私が話をすると軽くあしらい、大声で遮ってくる
女性	①	事務局の煩雑なこと雑用は女性にやらせる

問4) 関わっている市民活動で、ハラスメントの場面を見たこと、もしくは感じたことがありますか。

- ①パワーハラスメント 5人 ②セクシャルハラスメント 2人  
 ③その他ハラスメント 3人 ④ない 11人

問5) 記述

※個人が特定できないように編集してあります

男性	①	署名活動中、あるいは街宣中で、チラシを受け取らない。
女性	①	障害者施設を設立説明会の時平然と治安が悪くなると言われた。今でも嫌がらせを受けている
女性	①	大きな声で命令口調で話す人がいると、参加者が委縮する
男性	①	セクハラ被害を訴えている被害者を選挙の応援演説から排除した。
男性	②	女性参加者に、体形や容姿のことを言う。嫌な雰囲気になり、言われた女性は下を向いてしまった。私も何も言えなかったのは、加担してるのと同じだと後に気づいた。
男性	③	選挙中に車上アナウンサーを「ウグイス」と表現している場面を確認した。
女性	③	自分の意見を主張するのは良いが、他の意見を受け入れる様子が全くなく、どんどんエキサイトして話をする女性。そのスイッチが入ると周りは黙るしかない。
男性	②	女性が「無用の声かけはやめてほしい。付き合うつもりなんかない」と意思を伝えにもかかわらず、しばらく「付きまとい」が続いた。
男性	①	雑用は女性がやるものと思っている、年配の男性が多い

問) 市民運動でのハラスメントについてお考えがありましたらお書きください

男性	ジェンダー問題が注目されている中、このようなアンケートを取ることは良いと思いました。多くの方が回答し、自分が考えていなかったハラスメントに気づけることを期待します。
女性	ハラスメントなんてないだろうと思っていると、周囲の人が認識できなかつたりショックを受けて、適切な対応が出来なかつたりするようです。その結果、被害者が傷ついたまま孤立しがちです。セクハラに対しては男性は、特に鈍感な傾向が強いです。 そういう意味でも男性ばかりの活動は好ましくないこと、男女のバランスを常に考えること、ハラスメントが起こったらどう対処するのか学ぶことが望ましいと思います。 特に、セクシャルハラスメントにおいては、訴えを「事実かどうかわからない」と疑う言動は二次加害になりうるので、そうした基本的な知識は、最低限の常識にしてほしいです。

男性	災害時の避難所に置いてさえ、セクハラなどがあると聞く。人間の業の深さを思う。
男性	ハラスメントということではないが、相手をリスペクトしていない話し方をされる方が見受けられる場合がある。
女性	関わってる市民運動などではハラスメントはないが、町内自治会、社協地区部会など、特に1人の人がずっと会長などをやっている場合には起こりやすいと思う。数年前に地区部会でパワハラの事があり、せつかく育っていた支えあい組織が社協地区部会から抜けざるを得ない事があった。その際、チラシを配るな、とか、予算の一律カットなどがあったが、地区部会本体よりも辞めた組織の方がパワーがあったので、パワハラと言えるかどうか分からない。
男性	高齢者は古い慣習や経験から差別的な表現を気づかず使っている。「ウグイス」、「ごくろうさま」・・・。相手を傷つけず改めてもらうスキルも勉強した。
女性	市民連合が、広く市民活動に目を向け、ハラスメントアンケートに取り組む姿勢が良いと思う。ハラスメントとは思わずに行ってしまうことは多々あると思いますが、その気がつかないとか、女性自身がたいしたことではないと思うことが、女性蔑視やセクハラ・パワハラがなくなる理由につながると思います。
男性	市民運動が盛り上がらない事は、他人事で人任せ、無関心、面倒な事には関らない。だからです。まだまだ日本の民主主義は世界から見て、最下位で当たり前です。
男性	私は2問とも「ない」と回答しましたが、自分が気づいていないだけかもしれません。一般に、「被害者はハラスメントと認識していても、加害者は無意識だったりしてハラスメントと認識していない」ということがありがちですね。社会全体で教育や啓発をして、加害者や差別する側の「気づき」ができるようにしていかないとダメです。その意味でも、本アンケートのような取り組みは素晴らしいと思います。
女性	実際にハラスメントはあったと思うが、受けても？気にしないことが多い。あまり酷い場合はしっかりと声を上げて正したほうが良いと思う。どのような表現を使うか、いつ発信するかなど考えて使うほうが良い。
女性	相談窓口があるとよい このようにお金も時間もかけて市民のために立ち上げた事を一瞬で崩されることに対しては是正されるべき。なぜなら本来は誰かを支援したい、社会を良くしたいという純粋な思いを壊すことで自分を保つのは違う。本来の形でそれは解消されるべき。
女性	多くの団体の参加で行うイベントで、話し合いによらず、個々のやり方を尊重せず、独自の判断で指示命令する人が出現することがある。言動によっては、ハラスメントになると思う。日常の活動でも、自分自身の在り方も含めて、注意することが必要。
どちらでもない	様々な立場からの多様な意見を尊重して傾聴するところから活動が始まると考えていますが、つい自分の意見、特定の見解に拘ってしまい反省することしきりです。活動に参加しているいにかかわらず、相手を慮ることが互いの理解を深め連帯を強めることに結び付くと思います。